

# 信州読書会 ツイキャス読書会 課題図書

## 村上春樹『騎士団長殺し第1部 顕れるアイデア編』

信州読書会では、二週に一度、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を800字で書いていただければ、放送中に紹介します。

(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>

『Column Bar 信州 及び ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCv5e0gxXpE28Mbd0A1iGz2R>

(感想文は動画の下の説明欄にPDFへのリンクを張ってあります。)



### 村上春樹『騎士団長殺し』読書会

第15回のツイキャス読書会の課題図書は、村上春樹『騎士団長殺し第1部 顕れるアイデア編』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます

主人公の『私』は、36歳既婚。美大時代は、抽象画を専門だったが、生計を立てるため像画を描くようになった。彼の妻、ユズは、15歳のときに亡くした妹を思い出させたので惹かれた。デートに誘い、クロッキーを描いてあげるとユズは喜んだ。当時、付き合っていた彼氏とも別れ、親の反対を押し切り、ユズは、私と結婚した。しかし、6年間でふたりの夫婦生活は破綻し始める。妻のユズは、社交的であるが、私は、孤独を好む。そのため妻の補助的役割になりがちだった。彼女が見たある夢をきっかけに、一緒に暮らせないことを告げられ、浮気していたことも判明する。しかし、「友だちでいてほしい」という。私は、自暴自棄になって、仕事を投げ出し、日本海側を北上し、北海道まで旅に出る。その度の途中で、見知らぬ女と出会い行きずりの関係を持つ。しかし、彼女の後をつけていると思しい中年男に、睨まれ、その怒りに満ちた顔が、強迫観念となって記憶に残る。旅から戻ると、妻を残して自宅のマンションをでて、美大時代の同級生の所有する小田原の一軒家に引っ越す。高名な日本画家、雨田具彦のアトリエ兼自宅であったが、彼が、高齢者介護施設に入ったあとは空き家になっていた。私は、モラトリアムの時間を、自分のために絵を描くことで過ごそうとするが、テーマがなかった。ちょうど肖像画の依頼があり、免色渉という大金持ちの実業家と面談することになる。谷間を隔てた大邸宅に住む彼と親しくなり、交友を深めながら制作にはげむ。屋根裏部屋に物音がするので、観察するとみみずくが住みついていた。ついでに、『騎士団長殺し』という不思議な絵を発見する。『ドン・ジョバンニ』をモチーフにした日本画だった。雨田具彦のウィーン留学時代の謎が隠された日本画だった。深夜、鈴の音が庭から聞こえてきて、それ以外の物音がすべて消えるという怪奇現象が起こる。音源をたどると庭に祠を見つけた。その話に興味をもった免色は重機を入れて、祠を掘り返す。すると、下に深さ三メートルの石室が発見される。鈴は、その中にあった。免色はその石室に異常な興味を示す。免色にもう一枚、描いてほしいと依頼される。モデルは、彼の子どもかもしれない秋川まりえという少女であった。その少女は私の教えている絵画教室の生徒だった。

(おわり)

## 「新・ねじまき鳥クロニクル」

なんだか、第一部を読むだけで11時間もかかってしまいました。やれやれ。(第一部では、「やれやれ。」が無かったですねー。)

やはり、セックス描写多いですね。それでも、みんな買うから凄いことですよね。

新しいと思ったのは、免色渉の名刺がきちんと載っていることと、秋川まりえの母らしい人物が書いた手紙の書体が今までの村上作品ではなかったと思います。

物語の展開が凄くゆっくり進行するので、ねじまき鳥クロニクルの姉妹編として、結構ネタが被ってると感じました。

例えば、海外での消された事件、離婚、夫婦の話、暗い底に潜る話、女の子の話です。

免色さんて、今までだと絶対的な悪役キャラなんだけど、そうでもなさそうと思わせてる感じがありますよね。

グレート・ギャツビーのように、ただ娘(仮定)を覗くために、家を買ったのは完全にオマージュしていると思いました。

まだ第一部だけなので、第二部の展開を楽しみたいです。

(おわり)

イノマンさんのブログです。 『イノマンブログ』 <http://ameblo.jp/inoman-1984/>

## 『騎士団長殺し』を読んで感想

私という男は別れた妻、柚をすごく愛しているという事が伝わってきました。それは、二人が付き合っていた頃も結婚してからも、別れてからも。だけど私という男は柚について理解出来ていたのかがよく分からないと思いました。たとえ夫婦であっても恋人であっても本当の意味で相手を理解するのは無理な事かもしれませんが。そう思ったのは久しぶりに元住んでいた家に行った時、冷蔵庫には今まで自分が買っていなかった物、それは料理が苦手というのもあると思うけど、同じものでもメーカーが違うオレンジジュースなどがあり、それはもう私という男とは関わりのない空間になった事のように思えました。相手の事を理解した、気になって相手の気持ちに深く入り込もうとしていなかったのではないかと思いました。すべてさらけ出してなんでも話すから良いというものではないと思うけど、私という男は肖像画を描くときのように柚の本質を知ろうとしていた感じが分からなかったです。相手はきっとこうだろうと勝手に決めつけているような気がしました。それは勝手な思い込みかもしれませんが。

このお話は不思議な事がたくさん起こり、色々気になる人や事が多すぎる第一部ですが、私という男と元妻の柚とはこれからは何の関わりもないのか何かあるのか二人の行方が気になります。

それと、雨が降っている様子がすごく描かれていて私という男が住んでいる山の上の家を想像すると雨に濡れた土や草木の匂いがしてくるような気持ちになりました。雨はじめじめして重苦しい雰囲気にもなるけど、淀んだ空気を洗い流してくれるような気持ちにもなり、雨上がりには清々しい気持ちになります。私という男も読んでいる私もモヤモヤした気持ちが後半洗い流されるといいなと思いました。

(おわり)

## 『白いスバル・フォレスター男』

(引用はじめ)

でもな、誰がなんと言おうと、わたしが描きたいのはドイツ人たちの家族なんかじゃない。わたしは〈隔離病棟〉に積み上げられた子供たちを、白黒の絵にしたいんだ。やつらが殺戮した人々の肖像画を描き、それを自宅に持って帰らせ、飾らせたいたいんだよ。ちくしょうどもめ！（『騎士団長殺し』第1部 第32章）

(引用終わり)

愛というのは、他人の中にある目に見えない可能性を信じることであり、かつ、目に見えないものを信じる勇気をもつことだ。と、エーリッヒ・フロムは『愛するということ』と哲学書の中で述べている。彼もナチスから逃れ米国に渡った。家族には愛情深いナチスの絶滅収容所の看守が、同時に、他民族の子どもを大量虐殺するということがなぜ起こるか？

免色は、『彼は誰かを愛することを恐れたのではない。むしろ誰かを憎むことを恐れたのだ』と主人公は思った。秋川まりえが自分の娘かどうか、確認しないのは、彼女を一つの可能性のなかに投げ込んだ割に、信じることも、信じる勇気も放棄している、そんな無責任な態度に思われた。

あいまいな態度を取り続けながら、一方で彼女に執着し、双眼鏡で監視し続けるというのは、バランスを欠いた行為である。

自分の家族と、虐殺される子どもとを同じ可能性のうえに置くバランス感覚があれば、一方で大量虐殺に加担しながら、家庭ではよき父であることなどありえない。

上記引用のワルシャワの肖像画家を怒らせたのは、不気味なまでの無感覚である。

『おまえがどこでなにをしていたかはおれにはちゃんとわかっているぞ』という白いスバル・フォレスター男の怒りの声は、人間の無感覚を告発する良心の呼び声である。

私は、免色という人物が不気味だった。着実に一步一步計画を成し遂げ、異常なまでに忍耐力を鍛え上げ、孤独の苦しみを制圧して生きている彼は、どこか狂っていると思われた。それは、絶滅収容所の看守が制圧してきたものにどこか似ている。でも、本人に自覚がないようだ。だから余計に不気味だった。

(おわり)

『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>